

穿刺は透析室スタッフにとってストレスか？ -シャント穿刺におけるプレッシャーと自信の関連-

(医) 衆和会 長崎腎病院

○米田千恵子, 岩本まゆみ, 岩永敦子, 熊 博和, 白濱美和, 山中真樹子,
丸山祐子

【背景】

当院で2008年に実施した「透析スタッフのストレス調査」において、シャント穿刺 79.1%、透析中トラブル発生時対応 76.7%、患者との人間関係 72.1%の順にストレスを多く感じているという傾向であった。

【目的】

シャント穿刺に関するスタッフの意識を調査し、穿刺に対するストレスと自信の有無についての関連について明らかにする。

【対象・方法】

透析室勤務経験のある看護師46名、臨床工学技士11名を対象にシャント穿刺に関する意識についてのアンケート調査を実施し、アンケート結果から、ストレス状況と穿刺に対する自信の有無による意識の違いを解析する。

【倫理的配慮】

対象者に調査の目的と意義、プライバシーの保護などについて文書と口頭で説明し同意を得た。

【結果】

シャント穿刺に関して、ほとんどのスタッフがプレッシャーを感じていた。しかし、プレッシャーを感じている中で、経験10年以上になると、やりがいや自信がもてるようになる。シャント穿刺に「自信がある」スタッフと「ない」スタッフのプレッシャーに有意差は認められなかった。穿刺に自信がないでは、やりがいを感じないが高い傾向であった。穿刺に自信があるでは、自己向上のために努力をしていた。

【考察】

当院スタッフにおいては、プレッシャーと穿刺に対する自信について、関連性がないことが示唆された。シャント穿刺時のストレスは、本人の知識や技術に基づくもの以外の因子の関与が推測される。